

第7回 気候変動・省エネルギー行動会議

BECC JAPAN 2020

Behavior, Energy & Climate Change Conference

主催：気候変動・省エネルギー行動会議
後援：環境省、日本エネルギー学会、エネルギー・資源学会、日本家政学会、省エネルギーセンター（6月30日現在）
協賛：東京ガス株式会社、大阪ガス株式会社、電気事業連合会、東邦ガス株式会社、西部ガス株式会社、日本ガス体エネルギー普及促進協議会、積水ハウス株式会社（6月30日現在）
特別協賛：早稲田大学創造理工学部建築学科、早稲田大学建築学研究所、早稲田大学理工学術院総合研究所

BECC JAPANは、2014年の第1回から今年で第7回目を迎えました。省エネルギーのための行動変容に着目し、国内における最新の調査研究・実証事業等を皆様にお届けします。エネルギー業界、住宅・建築業界、メーカー、大学・研究機関、行政など幅広い分野の皆様のご参加をお待ちしております。

日時・会場

【本会議】

2020年8月25日(火) オンライン開催

※従来より会場開催としてきましたが、2020年はオンライン開催とさせていただきます。
基調講演・一般講演のみオンライン開催となり、施設見学会・交流会は中止となります。

参加費

- 基調講演
- 一般講演

無料

一般	12,600円
教育・研究機関	9,100円
自治体職員/学生	3,500円

一般	14,000円
教育・研究機関	10,500円
自治体職員/学生	4,900円

早期割引価格：参加申込期間 7/22(水)まで

通常価格：参加申込期間 7/23(木)以降

参加申込

<https://seeb.jp/>

お申込みは左記Webサイトから

申込み切8/20(木)

BECC JAPAN 2020 本会議スケジュール 8月25日(火) 全体プログラム (定員 250名程度)

13:00~13:10	代表挨拶等	14:15~14:35	休憩
13:10~13:15	準備・切り替え	14:35~15:35	①会場 口頭発表セッション A1 ②会場 口頭発表セッション A2 ③会場 口頭発表セッション A3
13:15~14:15	基調講演 「不利益のススメ」 川上 浩司 (かわかみひろし) 氏 京都大学 情報学研究所 特定教授 兼 京都先端科学大学 教授	15:35~15:50	休憩
		15:50~16:38	①会場 ライトニング発表セッション B1 ②会場 ライトニング発表セッション B2 ③会場 ライトニング発表セッション B3
		16:38~17:00	休憩
		17:00~18:00	①会場 口頭発表セッション C1 ②会場 口頭発表セッション C2 ③会場 ライトニング発表セッション C3

「不利益」という言葉をご存知でしょうか。「不利益」とは、不・便益 (no benefit) という意味ではなく、不便であることの益 (benefit of inconvenience) という意味です。例えば、完璧なジェスチャーをしない起動しないアプリ、素数表記しかない素数ものさし等々。そこには、不便だからこそ得られる価値や効用がデザインされています。デジタル化や自動化が加速する今だからこそ、「不利益」の発想に触れることで、行動変容を促す様々な思考を導き出すきっかけになるのではないのでしょうか。この度、「不利益」を提唱されている川上浩司教授をお迎えし、「不利益」の発想から生み出されるデザインや仕掛け、またその考え方についてご講演いただきます。

問い合わせ先 気候変動・省エネルギー行動会議

事務局 (株)住環境計画研究所 / Email info(at)seeb.jp ※(at)は@に書き換えてください / 電話番号 03-3234-1177 (代表)

本会議の詳細プログラム

(1) 口頭発表セッション

A1 HEMS導入世帯のエネルギーの使い方

スマートタウン居住者のライフスタイルに関する実態調査	市村 知輝 (東京工業大学)
家庭内における省エネルギー行動と意識に関する研究：燃料電池の効果と行動パターンに関する分析	坊垣 和明 (東京都市大学)
家庭内における省エネルギー行動と意識に関する研究：集合住宅におけるエネルギー利用の季節変動、住戸・居住者タイプとの関係性	吉田 一居 (東京都市大学大学院/東急不動産R&Dセンター)

A2 省エネ・環境教育 (その1)

ビジュアルナッジで学校での省エネ行動は促進できるか?：横浜市立小学校における2事例	糸井川 高穂 (横浜市行動デザインチーム (YBiT)/宇都宮大学)
行動変容ステージモデルを活用した省エネ教育プログラムに基づく行動変容効果	三神 彩子 (東京ガス/東京家政大学)
小学校の環境教育プログラムが保護者の行動に与える影響	高口 洋人 (早稲田大学理工学術院)

A3 デマンドレスポンス/省エネリフォーム

ダイヤモンドサイドマネジメント (DSM) に対する意識調査結果報告	鷲津 明由 (早稲田大学)
戸建住宅の断熱リフォームの普及促進に向けた調査研究	前 真之 (東京大学大学院)
断熱リフォーム普及促進のための冊子コンテンツの作成	鈴木 智統 (東京大学大学院)

C1 ホームエネルギーレポートによる情報提供

ホームエネルギーレポートによる省エネ効果の地域性・持続性に関する実証研究：省エネ効果の季節性と経年変化	平山 翔 (住環境計画研究所)
ホームエネルギーレポートは誰を「ナッジ」したのか?：他世帯比較とグループインタビューによる一考察	小林 翼 (住環境計画研究所)
動画コンテンツを活用した省エネ情報提供の有効性評価	信國 恵美 (電通)

C2 設備/機器の購買の意思決定

日常生活における省エネ行動の実践度と給湯器選択における省エネ型購買行動との関係	天野 晴子 (日本女子大学)
省エネルギー性能以外の価値 (NEV: Non-energy-value) を活用した省エネルギー機器普及促進事業	土屋 友和 (住環境計画研究所)
大規模消費者パネルからわかる省エネ家電買換え動向	甲斐 聡 (インテージ)

(2) ライトニング発表セッション

B1 行動変容に関する自治体等の取組

日本の地方自治体における“省インフラ”行動による温室効果ガス排出削減効果に関する考察	福田 一成 (アズビル)
横浜市の小中学生向け普及啓発事業におけるナッジを活用した省エネ行動変容の取組 (第一報)：地方自治体におけるナッジ活用の可能性と課題	植竹 香織 (横浜市役所/横浜市行動デザインチーム)
環境分野における組織横断ナッジ・ユニット「Behavioral insights Team for Sustainability (BiTS)」(仮称) の設立：持続可能な社会構築に向けた行動変容イノベーションを	宇山 生朗 (北海道行動デザインチーム (HoBiT))
気候変動・省エネルギー分野における行動科学 (ナッジ) 活用の最新動向と社会的インパクト	伊原 克将 (EY アドバイザリー・アンド・コンサルティング)

B2 省エネ・環境教育 (その2)

センター試験問題における省エネ行動に関する動向：新学習指導要領を射程に入れて	松葉口 玲子 (横浜国立大学)
小学生を対象にした体験型省エネ教育プログラムの開発	赤石 記子 (東京家政大学)
小学校高学年向けの環境教育におけるシール教材の有効性に関する研究	粕谷 彩乃 (早稲田大学大学院)
家庭における親子の省エネルギー意識・行動の定着に関する研究：その3 介入方策による居住者の意識・行動・エネルギー使用量の変化	高田 宏 (広島大学大学院)

B3 卒FIT/AIによるエネルギー分析

卒FIT世帯の蓄電・蓄熱設備導入状況に関する調査	岸田 真一 (住環境計画研究所)
電力ビッグデータを用いた家庭用太陽光発電・蓄電システムの分析	小澤 暁人 (産業技術総合研究所)
住宅エネルギー消費削減に向けたAI活用の可能性	本田 智則 (産業技術総合研究所)
AIを活用した新たな省エネルギーサービスEnneteye	五郎丸 章裕 (エネット)

C3 価値観、動機付け

ガス機器の利用状況に応じたレコメンド効果について	岡本 秀樹 (大阪ガスマーケティング)
エネルギー消費行動に対する価値観影響の理論化に向けて：第2報	大塚 彩美 (早稲田大学)
省エネルギー行動のきっかけと意識および行動の変化：実体験/非実体験と個人の価値観に着目して	厨川 拓海 (横浜国立大学大学院)
省エネ設備導入の促進・阻害要因を探る：インターネット調査による検討	安藤 香織 (奈良女子大学)